

# わが校の紹介

学校・家庭・地域が

一体となっていてこそ

養父市大屋小学校

校長 岩本利幸

ミスバシヨウ、大杉さんさこ踊り・素晴らしい自然と尊い歴史の流れの中で、醸し出され培われてきた地域の人々の温かい人間性。校歌に歌い継がれてきた校樹・月桂樹。伝統ある大屋小学校は、まさしく子どもたちが人間らしく育つ環境に恵まれている。

本校の教育目標である「郷土を愛する、こころ豊かな、たくましい大屋っ子の育成」を念頭に置いて一年を振り返ってみる。春のなかよし運動会、学習発表会、節分集会等、学校行事には、

## 窓 学力アップ特効薬は「本」

新聞の見出しです。内容は、県教育委員会が実施した基礎学力調査で『本をよく読む子ども』の学力があるという傾向がでた。このことから、2005年度、読書週間の定着に力を入れ、すべての小中学校に「読書タイム」を週3回以上設けるよう呼びかけ、本好きの子の育成に取り組む」というのです。

出来る限り地域の人々との関わりを創ってきた。招待状が、地域との出会いを生み、さらにそのつながりを深めていった。「ほんの森」タイムは、本校の保護者ボランティアによる本の読み聞かせの名称である。毎週3回の朝の読書タイムのうち1月の2回は、6名の保護者に各学年に入って読み聞かせをしていただいている。その他、米や花作り、大豆の苗植えから豆腐作り、縄細工、ダンス、校区の歴史のお話等、地域の教育力に多くを得ている。様々な人たちの交わりは、豊かな心を育む源となる。

丈夫な体を持ち、意欲的に学ぼうとするたくましさは、不断の学習こそが原動力。休み時間待ち構えて運動場に飛び出す子どもたちの姿が「よく学



び、よく遊ぶ」ことの大切さを立証してくれている。学校・家庭・地域が一体となつてこそ、子どもは全人的に育つ。本年度、実施した学校公開で得たさらなる確信である。校区は、大きな学校、その拠点として本校がある。その思いを熱くして日々、歩み続けている。しかしながら、来年度を最後に、町内4校が統合し、締め括る時を迎える。学校建設に伴い本校の運動場は狭くなった。夏には、感謝の心を込め、PTA主催「さよならグラウンド祭り」を実施した。次年度に向け、これまで以上に、他校との学習の交流を基に、子どもたちにとってスムーズな統合を図っていくことが大切であると考えている。

昨年6月、養父市教育委員会は、市内の小中学校を対象に「読書活動」について調査をしました。その中で、『すべての学校が朝の10分から15分間、週1回以上の読書の時間を設けている。また、教師や保護者、そして地域ボランティアによる「本の読み聞かせ」を実施して、児童たちが読書好きとなる取り組みをしている」とありました。本を読むことは良いことだと

誰もが分かっています。誰か、どう実行するかがカギです。ある実践例として、「朝の読書の4原則」と称して、**「みんなでもやる 毎日やる 好きな本でよい ただ読むだけ」**を実践し、読書意欲の向上につながったと聞きました。学校で、家庭で、地域でこのような機運の高まりを期待したいものです。

(学校教育課)

## まちの文化財⑨

今滝寺の孔雀明王図

今滝寺に伝わる孔雀明王図を赤外線写真撮影して調査したところ、全く別の絵画と間違えるほど綺麗な下絵が発見されました。しかも美しい顔の表情は、平安時代末期の様式で描かれており、但馬最古の絵画資料になることが分かりました。

養父市八鹿町の今滝寺は、八木城主の菩提寺として栄えた寺院で、鎌倉時代に作られた県指定文化財の金剛力士像があることで有名です。

八鹿公民館で2月27日、70名が参加して第12回ふるさと歴史講演会が開催されました。そこで調査を実施した県立歴史博物館学芸員の橋村愛子さんが「今滝寺所蔵の仏教絵画の検証」と題して調査成果を発表しました。

孔雀明王図は、皇族の長寿延命や天変地異を鎮めたり、祈雨の修法(雨乞い)に使われる仏画です。全国でも10例ほどしか知られていない珍しい絵画だといえます。

この絵は絹地に色を着け



た絹本著色という技法で描かれています。長年の歳月によって色が変質し、暗くぼんやりした絵になっていました。しかし、赤外線写真によって下絵の鮮明な墨書きの線があらわれ、美しい顔形や衣の文様、服装の細かい線が発見されたのです。

(社会教育課)